

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 計画

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	小城市立三里小学校
1 前年度 評価結果の概要	・達成度は全てにおいて十分達成の数値を示した。チーム一丸となって、日頃からの取り組みの成果だと考える。 ・特別支援学級の児童が増加傾向にあるため、コーディネータの育成や校内体制作りを急ぐ必要がある。 ・「地域との連携」について、地域の実態の変化や働き方改革の視点を含めて、各種団体との協議を進め、改善を図っていく必要がある。
2 学校教育目標	「ふれあい チャレンジ きらりかがやく 三里の子」の育成
3 本年度の重点目標	(1) 確かな学力の定着と指導力の向上 (2) 人間性豊かな心の育成 (3) 「志を高める教育」の深化

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				主な担当者	
(1)共通評価項目											
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価			
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師75%以上	・教職員間でマイプランを共有し、校内研修等によりPDCAのサイクルに基づいた取り組みを推進する。							・学力向上対策コーディネーター ・研究主任	
	○国語科「詠むことの指導と関連させた書くこと」の授業研究を通して、「自分の考えを自分のことばで進んで表現する力」を育む。	○学習等で自分の考えを言葉や文章で表現することができるようになってきた児童80%以上をめざす。	・全職員、研究授業を行う。 ・事前・事後研究会を必ず行い、今後の授業に生かす。 ・毎時間、児童が自分の言葉で学習内容について振り返り、発表する。							・学力向上対策コーディネーター ・研究主任	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○縦割り班活動を通して、班の仲間のよさを見付け、協力して活動できている児童が83%以上をめざす。	・縦割り班集団活動を通して、自他の違いに気づき、互いのよさを認め合う関係をつくる。							特活部担当 各学年主任	
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○三里小「いじめゼロ宣言」を守って生活している児童を90%以上にする。 ○心のアンケートの実施率を100%とする。	・全教職員で全児童を見守り、いじめ・不登校等の未然防止と早期発見に努める。 ・「安心、自信、自由」を確認し、いじめゼロ宣言を、児童に浸透させる。							人権・同和教育担当者 教育相談 道徳教育推進員 各学年主任	
	◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	◎「将来の夢や何らかの目標を持っている」について肯定的な回答をした児童(小学6年生)75%以上	・キャリア・パスポートを活用し、自分自身を見つめる機会を設定する。 ・褒める機会を数多く設定し、自己肯定感を高める声かけを心がける。							教務主任 各学年主任	
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	「早寝早起き朝ご飯」朝食喫食率92%以上をめざす。	・食につながる農業体験活動を通して、自分の「食に対する見方や考え方」を見直す機会をつくる。							給食担当	
	○たくましい体づくりの推進	○継続的な体作りを推進し、やり遂げる児童を88%以上にする。	・「朝ランニング」や「スポーツチャレンジ」への参加を奨励する。							体育主任	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・学校行事や地域連携行事のあり方を地域役員と協力して見直す。 ・組織力で校務分掌担当業務量の軽減化を図る。							管理職	
	○ICT利活用、行事、会議の更なる厳選	○会議の時間を1割削減(例:100分→90分)	・会議を厳選し、回数を減らす。 ・ICTを活用し、電子回覧板等の機能を有効活用し、会議の時短を図る。							管理職	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目											主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価			
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
○開かれた学校づくり	○保護者や地域に信頼される学校づくり(教育効果を高める連携)	○学校の様子ができるような情報が発信されていると答える率が83%以上をめざす。 ○保護者や地域の方と連携・協力しながら、活動できていると答える率が80%以上をめざす。	・定期的な学級通信や学校便り等を活用して、情報発信を積極的に実施する。 ・学校と育友会と地域との連携のもとに、新学習指導要領に沿った活動を推進する。							管理職	

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	
--------------------	--